

平成27年度 組織拡充大会 団活動紹介

開催日 平成27年5月16日 会場 清水テルサ

地区名・団名	地区名	浜松地区	団名	浜松第1団
紹介者	役務	BS隊長	氏名	小林 博之
活動地域	浜松市内周辺			
団規模	登録者	小林 博之		
	スカウト	24名	指導者	13名

紹介活動

テーマ	上進率100%に向けて
内容	<p>組拡活動重点的に要約</p> <p>① 23WSJに参加するスカウト BS⇒3名/7名(43%)、VS⇒3名/6名(50%)、RS(ISTとして)⇒4名/6名(67%) 参加意識が高いのは、ベンチャー隊活動を可視化している。 ◆スカウトへのプレゼンテーション 事前に行い、活動への意欲を高めるために行う。 ◆保護者へのプレゼンテーション 22WSJや16NJなど活動後に行い、スカウトの成長を知る機会とし、自分の子供への期待を植え付ける。 活動報告は視覚効果を狙ってムービーにて報告する。 ・保護者会、育成会総会にて報告 ・団行事などで、BVSスカウト、CSスカウト、BSスカウトにも報告する</p> <p>② 当団の上進率は100%、今回はBS⇒VS、VS⇒RSについて ●活動重視のシステム ●企画書・計画書は慣れてくれば書けるようになる(2回目、3回目と徐々に良くなる) ●スカウトのやる気やモチベーションを下げないように、やりたいことをやらせる ●行うことによって学ぶということ ●隊長はスカウトを信頼すること⇒「おきて」の実践</p> <p>③ VS隊指導者の便利ツール LINE⇒スカウトとの連絡用、またグループ活用で打ち合わせにも使える DROPBOX⇒プロジェクトの置き場所。議長や隊長の承認がしやすい。メールでは手間がかかる</p> <p>④ VS隊の活動を活発にするためにはBS隊の活動が重要 班活動(班ハイキング・班キャンプ)をしっかりとやる(企画・計画をたてさせる) VS上進時まで取得しておくべきバッジを理解し、取得させておく</p> <p>⑤ 段階的教育システム 各部門の活動のねらい、活動目標を忠実に実行していくこと 短期プログラム(隊集会までのプログラム)、中期プログラム(1年間のプログラム)、長期プログラム(入隊から上進までのプログラム)、超長期プログラム(入隊から25歳までのプログラム)を団委員、各隊指導者が理解した上で運営していく必要がある</p>

上進率100%に向けて

日本ボーイスカウト浜松第1団
平成27年組織拡充大会

浜松第1団

1954年設立 創団61年

2015年登録人数

- ・ B V S スカウト 6名
- ・ C S スカウト 6名
- ・ B S スカウト 7名
- ・ V S スカウト 6名
- ・ R S スカウト 6名
- ・ 団委員、指導者 13名

23WSJへの参加スカウト

- BSスカウト 3名／7名
 43%
- VSスカウト 3名／6名
 50%
- IST (RS) 4名／6名
 67%

ベンチャー隊活動の可視化

☆2つのプレゼンテーション

◆ スカウトへのプレゼンテーション

- 事前に行う
- 活動への意欲を高める

◆ 保護者へのプレゼンテーション

- 活動後に行う
- スカウトの成長を知る機会

活動報告は視覚効果を

- ◆ 保護者会
- ◆ 育成会総会
- ◆ 団行事



活動重視



企画書・計画書の書き方よりも実施させる

スカウトを

信頼

すること

VS隊長の便利ツール



スカウトとの連絡に



プロジェクトの管理に

ポイント

BS隊での活動が重要

- 班活動の実施により自発的になる
- VS隊上進時までには取得しておく
バッジを理解する



段階的教育システム

- BS隊はVS隊を見据えて活動計画をたてる
- CS隊はBS隊を、BVS隊はCS隊を

次のステップがわかっているから上進する

まとめ

- 各部門が基本に忠実
- 年代の特性に合わせた指導・支援
- 小集団(班・組・チーム)を活性化させる
- 指導者は次の部門の進歩を考慮して
プログラムを策定する

今年大学へ進学したスカウトは
大学ローバー、地域ローバーに
所属しました。

ありがとうございました。